

心つみ

第70号 2024. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目次

新年のご挨拶……………	福島県土地改良団体職員連絡協議会…	3	年男・年女		
土地改良は歴史の中心にあった？……………	会長 五十嵐 賢一	4	これまでとこれからと……………	安達疏水土地改良区……………	12
専務理事 菊地和明……………		4	雲竜型……………	菅野 龍太郎……………	12
第47回総会……………		5	年男……………	水士里ネット福島……………	12
永年勤続			会津坂下町只見川土地改良区……………	菅野 恵吾……………	13
勤続10年を振り返って……………	会津東部土地改良区……………	8	新会員のみなさんより		
勤続30年を迎えて……………	会津大川土地改良区……………	8	泉に及ぶ……………	水士里ネット福島……………	14
	鈴木清剛……………	8	土地改良区に勤務して……………	元村雅登……………	14
	芳賀章平……………	8	よろしくお願い致します。……………	江花川沿岸土地改良区……………	14
	水士里ネット福島……………	9	第2の人生……………	水士里ネット福島……………	15
	水士里ネット福島……………	9		鹿島町土地改良区……………	15
	宮田 亮……………	10		猪苗代町土地改良区……………	15
	磐梯西部土地改良区……………	10		猪苗代町土地改良区……………	16
	加藤 健也……………	10		四時川沿岸土地改良区……………	16
	水士里ネット福島……………	11		富岡町土地改良区……………	17
	尾形 聡……………	11		今後の抱負……………	小浜 香織……………
	近野 好範……………	11		土地改良区職員となって……………	遠藤 朱……………
	見目 将規……………	11		そうま土地改良区……………	伊東 秀将……………
					17
					17
					16
					16
					15
					15
					14
					14
					14
					13
					12
					12

よろしくお願ひいたします……………	水土里ネット福島……………	宗形勇輝……………	18
よろしくお願ひします……………	磐城小川江筋土地改良区……………	金成紘嗣……………	18
よろしくお願ひいたします……………	阿賀川土地改良区……………	児島正幸……………	19
よろしくお願ひいたします……………	会津坂下町只見川土地改良区……………	長谷川新哉……………	19
新しい課に配属となりました……………	水土里ネット福島……………	矢吹直也……………	20
土地改良区の職員となって……………	安積疏水土地改良区……………	吉田功……………	20
土地改良区職員となって……………	安積疏水土地改良区……………	椎根隆人……………	21
今、伝えたいこと……………	『女子会』始めました……………	会長 大桃智子……………	22

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 五十嵐 賢一

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、令和六年の新春を迎えることができたことを心よりお祝い申し上げます。さらに、旧年中は本協議会の事業運営に際し、特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、昨年九月には浜通りに県内で初めて、局部的豪雨をもたらす線状降水帯が発生し、いわき市を中心に大きな被害をもたらしました。私たちの業務は、気象状況に大きく左右されますが、決して他人ごとではなく、たまたま地元には発生しなかった、そう思いながら被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、本協議会の令和五年度総会では、五月に新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが「5類」に引き下げられ、有事から平時に移行し、対面での総会を催しするのは令和元年より四年ぶりとなりました。

郡山市「ビッグパレットふくしま」で開催し、約六十名が出席され書面表決と併せて原案どおり可決承認をいただきました。

毎年事業計画の中で、懸案事項で挙げられる機関誌「むつみ」につい

てですが、どの土地改良区も年末は多忙と思いますが、そのような中で執筆依頼になるため、文字数を減らして執筆できる環境にする等進めてきました。役員会でも様々な意見を出し合い、今号ではデジタル化と経費削減を掲げ、これまでの冊子による配布ではなく、水土里ネット福島HPでの閲覧と、各土地改良区へは、一冊のみの配布とし、印刷は事務局で対応するといった方法で試みました。

令和六年度の活動計画については、コロナ禍前の水準に徐々に戻しつつ、総会及び研修会を宿泊で開催し地域貢献できる様、役員会で前向きに検討したいと考えています。

昨年は、土地改良区会計にとって変革の年であり、「決算関係書類」の作成と公表を定められ、単式会計から複式会計へ移行し、令和四年度が初決算となり、試行錯誤して作成されたと推察されます。つまりいた時は県土地連さんで、とても心強い存在でした。

前述で、土地改良区の業務は気象状況に左右される。と記しましたが、気象庁は、昨年の夏の平均気温が一八九八年以降で最も高くなったと公表しました。猛暑による農作物への影響も顕著であり、高温障害による県内産一等米比率が約七十五%で、二十二年産米の約九十五%を大きく下回りました。今年は、平年どおりの気候で平年並みの収穫量を願うばかりです。

最後になりますが、本紙「むつみ」に原稿執筆を依頼され、ご協力を頂いた皆様に深く感謝申し上げますと共に、本年が会員の皆様にとりまして、よりよい年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

土地改良は歴史の中心にあった？



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 菊地 和明

皆様、新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

ご期待？に込め、また突飛なタイトルで始めます。あなたも私もたまたま職業として関わっている土地改良、農業農村整備、農業土木（いずれも元は同じであるため以下、「農業土木」と表現）も、少し見る角度を変えることで別の世界が見えてきます。

☆「忠犬ハチ公」は農業土木関係者

全く意味不明ですよ。実は昨年生誕百年となった渋谷のハチ公の飼い主は日本で初めて農業土木学講座を（当時の東京帝国大学で）開設した上野英三郎教授です。裏話では、上野先生が急逝後十年もの間、ハチ公が駅で先生を待ち続けたのは、生前、大学から帰る飼い主と合流し馴染みの焼鳥屋でおぼれに預かっていたから、とか。

☆世界の歴史は農業土木がつくっていた！

決して過言ではありません。古代ローマの水道橋もパリの下水道もナイル川のアスワン・ダムも、社会の進化の歴史は水と土、コンクリートに真正面から向き合う農業土木により支えられてきたのです。昨今、河川管理者の力及ばず治水の一部を地域支援に求める田んぼダム。これは新たな試みでなく、そもそも近年までは農業土木のみが存在したのです。近年の経済・社会の高度化でインフラ等を対象とする部分だけ土木とし

て暖簾分けしたのです。

☆振り返れば農業土木とともに生きている

我が国も同様に、徳川の世、江戸の平安を支え現在の首都圏形成の礎を築いたのは、家康が行った治水、水運とかんがい施設整備、つまり農業土木であり、利根川が東京湾に注いでいた頃洪水のたびに水浸しであった江戸の街が、利根川の河道変更で都市として最適の地となりました。熊本の加藤清正や甲斐の武田信玄など名立たる武将たちには我々と同業者が多いのです。司馬遼太郎も「近代以前は農業土木と治山治水が世を救う道だった」と語っています。郡山市と周辺地域形成の基盤となった安積疏水や浜通りの経済基盤を確立させた八沢地区、井田川地区の干拓など地域を振り返っていただければご理解いただけるはず。

☆土地改良区は地域の中心で愛を叫ぶ

昔どこかで聞いたようなフレーズ。もちろんそんな感覚は無いでしょうが、皆さんの日々の業務は、農業振興に加え地域運営の様々な役割を担っています。役場の住民登録で納税義務が生じるように、土地改良区の受益者は全て組合員となり賦課金納入の義務が生じるのはご承知のところであり、土地改良区は名実ともに農村地域の中心にあるのです。中心にいると他者も同じ景色を見ているものと勘違いしますが、実は他の業界等には地域の全体像は見えていないのです。

☆農業土木は「スゴい！」の宝庫

何かと苦勞が多い日々の仕事ですが、身近に多くの「スゴい！」があることを教えてくれるのがSNSやマニアの動きです。ダム・ため池や頭首工、揚排水機場などに熱い視線を注いでいます。身近な施設等を掘り下げてみると面白いかも知れません。是非試してみてください。

まだ、コロナもインフルエンザも気は許せないなので、ご自愛いただきつつも、本年が実り多き一年となることをお祈り申し上げます。

第47回総会

第47回総会は、令和5年7月28日（金）郡山市「ビッグパレットふくしま」において開催されました。

五十嵐賢一会長（会津若松市湊土地改良区）より挨拶があり、続いて特別功労者及び永年勤続者表彰が行われました。代表の方に会長より表彰状が授与され、併せて記念品が贈呈されました。



会長挨拶



来賓祝辞



特別功労者表彰

表彰された方々は別頁のとおりです。受賞者の皆様の御健康と益々の御活躍をお祈りいたします。

表彰式後、来賓の福島県土地改良事業団体連合会専務理事菊地和明様より祝辞をいただきました。

議長に五十嵐会長が選出され、挨拶の後、議事に入りました。

議案第1号「令和4年度事業報告の承認について」、議案第2号「令和4年度収支決算の承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、渡辺浩彰代表監査員（大玉土地改良区）の監査結果報告の後、承認されました。

議案第3号「令和5年度補正予算（案）について」、議案第4号「令和6年度会費・協賛金の額及び徴収方法（案）について」、議案第5号「令和6年度事業計画（案）について」、議案第6号「令和6年度収支予算

（案）について」、議案第7号「役員

の補欠選任について」は事務局の説明後、いずれも原案のとおり承認されました。



また、役員

業務研修会

業務研修会は、「適格請求書等保存方式の概要」について、仙台国税局課税第二部消費税課消費税係国税実査官黒澤政弘氏にお話をいただいた。



福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(令和4年度～令和5年度)

役職	氏名	所属	方部
会長	五十嵐 賢一	会津若松市湊土地改良区	会津
副会長	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	県北
副会長	植松 宏行	南相馬土地改良区	相双
副会長(新)	齋藤 佳久	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	菅野 龍太郎	安達疏水土地改良区	県北
幹事	根本 和俊	安積疏水土地改良区	県中
幹事	渡邊 陽介	郡山市東部土地改良区	県中
幹事	吉田 昌照	矢吹土地改良区	県南
幹事	武藤 謙治	白河市土地改良区	県南
幹事	佐藤 慎子	駒形土地改良区	会津
幹事	諏訪 美彦	会津宮川土地改良区	会津
幹事	後藤 学	高郷土地改良区	会津
幹事	山内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹事	村井 裕次	八沢干拓土地改良区	相双
幹事	矢吹 英信	磐城小川江筋土地改良区	いわき
幹事(新)	菊田 克彦	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	佐瀬 隆聡	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
監査員	渡邊 浩彰	大玉土地改良区	中通り
監査員	遠藤 勇樹	猪苗代町土地改良区	会津
監査員	松浦 勝男	いわき市勿来地区土地改良区兼井上用水堰土地改良区	浜通り

永年勤続者表彰

特別功労者表彰

愛谷堰土地改良区

菅波孝光

30年勤続

母畑地区土地改良区
会津宮川土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会
福島県土地改良事業団体連合会
福島県土地改良事業団体連合会

中村孝之
前田伸一
尾谷孝俊
尾形孝聡
近野好範

20年勤続

母畑地区土地改良区
会津宮川土地改良区
会津宮川土地改良区

安藤喜真
渡部庄吾
二瓶保之

10年勤続

泉崎村土地改良区
会津東部土地改良区
会津北部土地改良区
磐梯西部土地改良区
会津宮川土地改良区
会津大川土地改良区
井上用水堰土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会
福島県土地改良事業団体連合会

佐藤和恵
鈴木清剛
立川基毅
加藤健也
福田和洋
芳賀章平
松浦勝男
宮田勝亮
見目将規



永年勤続

勤続10年を振り返って

会津東部土地改良区
鈴木清剛

今回永年勤続10年の表彰を頂きさらに「むつみ」の執筆依頼もありましたので、良い機会と思い、これまでの土地改良区での10年間を振り返る事にしました。10年間仕事はそれなりに頑張ってきたと思えました。以上です。

ただ、1つだけかなり重大な事に気づきました。この10年間で1つの病気を患ったことです。

それは、どこに行っても、水路を見てしまう病気です。病気は病気でも、職業病の一種です。疾病等の本格的な職業病ではありませんが、軽く私生活に支障をきたしています。

これに気づいたのは、休日に車で遠出した時です。まず、家から高速に乗るまでの間に私が担当している水系の幹線用水路があり、その橋を通った時に、よそ見運転でサッと水路の水量を確認し、「だいたいあの位なら今日も配水は大丈夫」と考えていました。さらには、県外の馴染みのない地域を車で走っていても、水田付近の水路を見ると、水の流れや水路の構造を無意識に見てしまいます。心の中で、「あの水路大きいな」、「排水に柵渠使ってるから結構古い水路だな」、「この水路は国道を横断しているから管理大変だろうな」などと普通に見て考えている自分に気づきました。日常生活でいたる所の水路が気になって仕方ありません。その分よそ見もしますし、家族との会話も頭に入りません。これはもう病気です。

私は、今の土地改良区に入ってから今まで、当土地改良区で一番受益面積の大きな水系を担当してきました。水利権の更新にも携わってきました。当然日々の業務もこの水系の

配水及び維持管理に全神経を向けています。こんな状態を10年も続けるのと、このような病気が発症するようです。治るかどうかわかりませんが、これからの人生この病気とうまく付き合っていくために、水路を見ながら楽しめる釣りでも始めようかと思っています。これが勤続10年を振り返った率直な感想です。

最後になりますが、勤続10年ではまだまだ未熟で日々勉強の毎日ですが、常に組合員ファーストで万里一空の精神で頑張っていきたいと思えます。

10年勤続表彰を受けて

会津大川土地改良区
芳賀章平

新年あけましておめでとうございます。この度は10年勤続表彰を賜ります。入職してからの10年を振り返ると

入職して間もない頃のことか思い出されます。土地改良区の業務内容や組合員の方が話される農業用語が全く理解できずに諸先輩方をはじめ多くの方々に向けて頂きながら従事しておりました。一人でできる業務などはほとんどなく、事務手伝いや先輩方の手が空いた時に管内施設を案内して貰い、施設の位置や調整の仕方などを覚えるのに必死でした。

初めて大きな業務に携わったのが会津南部地区国営かんがい排水事業採択に向けた管内受益地の1筆毎の土地調査で、登記簿と土地改良区の賦課台帳、農業委員会の農家台帳を突合する業務でした。聞き慣れない土地の所在名や地目と現況が違うなど1つ1つの内容を精査しなければならず、先輩方に頼らざるを得ないことばかりでした。どんな時も優しく丁寧に教えて頂いたことが大変有り難く、この業務を最後までやり遂げたことが今でも自信となっています。その国営事業も平成27年度に着工し、令和7年度完了に向けて現在進捗中です。(予定より1年延伸となりましたが...) 組合員の方々へ安定した農業用水を供給することを使命として、ご指導ご助力を頂きながら事業完了に向けて励んで参ります。

いと思います。

また、10年の間に様々なことが大きく変わりました。私生活では4年前に結婚し、今では2歳になる娘の父親になりました。イヤイヤ期に振り回されながらも娘のを見せてくれる笑顔や笑い声に日々癒やされています。所内では後輩もでき役職も会計主任となり、水管理・工事発注等の現場中心から賦課徴収、会計経理、各種会議の資料作成・段取りなど運営事務中心となりました。直近では会計方式が単式から複式簿記へと移行したことが一番の変化でしたが、土地連の方々ははじめ近隣土地改良区職員の方に大変丁寧に教えて頂き、無事に複式簿記での決算をまとめられたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

仕事と家庭の両立と年々体の衰えに苦労していますが、今後も自分自身が成長していけるよう一層努力していきたいと思っています。また、自分がこれまで様々な方から受けてきた知識や経験を後輩達へ繋いでいき、土地改良区がこの先も持続してける一助になればと思っています。

会員の皆様とお会いできる機会がございましたら、仕事のみならず近況報告などできればと思っています。

す。今後ともご指導のほどよろしく
お願いいたします。



勤続30年を迎えて

水土里ネット福島
桃谷孝俊

新年明けましておめでとうござい
ます。昨年は勤続30年の表彰を賜
り、感慨深いものがあります。前回
表彰からもう10年経ったんですね
という感覚です。

その頃は東日本大震災が発生して
3年が経過し、復興関連の業務も

徐々に落ち着きを見せ、プロパー業
務も通常運転に復帰した記憶があり
ます。

自身はというと主に頭首工、排
水機場、揚水機場等の機能保全計画
作成や事業化に向けての土地改良計
画作成等の農業用施設の補修に関す
る業務が多く携わるようになりました。

その施設は昭和40年代〜50年代の
食糧増産時代に築造されたものが多
く、構造物は現物を計測して工事に
て図面化し、機械設備は代替部品が
ない場合が多く丸ごと交換する方向
で機能回復させる事例が、多かつた
と思います。

例えば福島県内で平成10年8月末
豪雨・台風、平成23年7月新潟・福
島豪雨、令和元年台風19号豪雨災
害、令和4年8月3日から4日にか
けての大雨を見てみると地球温暖化
のせいか災害級の大雨の頻度が高く
なってきた3年後また起こるのでは
ないかと危惧しております。

一方で気付けば自分もちゃんちゃ
んこに向けカウントダウンが始まっ
ていました。そういえばアラフィフ
の時、運動で意識と体の不一致が起
き、最近では老眼が進行し手前30cmの
文字が見えなくて眼鏡デビューしよ

うかどうか迷っており自覚しなけれ
ばと思います。

普段の買い物でも小銭持ちは好き
ではないのでプリペイドカードで支
払いにしています。マイナカードが
あるけども役場窓口で証書もらっ
たり、銀行払い戻しも店舗窓口まで
出向いている状態で、デジタル化生
活ライフはまだまだであるものの、
もっと良いの出ないかなと思っています。

また、これからのモチベーション
として健康的で長く続けられる趣味
を見つくるつもりです。

拙いネタで申し訳ございません
が、皆様の今年の益々のご健勝とご
多幸をお祈り申し上げます。



永年勤続表彰を受賞して

水土里ネット福島

宮田 亮

新年明けましておめでとうござい
ます。この度、水土里ネット福島に
就職して10年が経過し、その節目に
永年勤続表彰という荣誉ある表彰を
頂きました。また、光荣にも本誌へ
の執筆の機会を頂いたことに、誠に
感謝申し上げます。

執筆にあたり、本会での10年間の
勤務を振り返ると、東日本大震災の
翌年度に採用して頂き、当時は原子
力災害に関する様々な情報が飛び
交っており、不安ながら茨城県から
引越してきたことを懐かしく思い
ます。しかしながら、業務を通じて
様々な地域を訪れると、震災の爪痕
が当時のまま残されている光景や全
住民が避難し生活の気配が感じらな
い地区に足を運ぶ機会がある一方、
震災の翌年でありながら、これまで

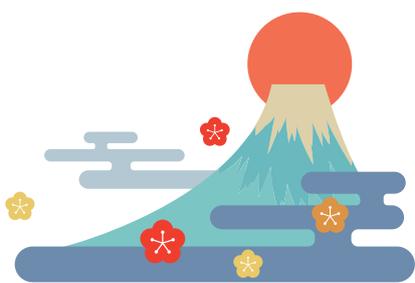
通りに人々の生活や営農が続けら
れ、作付けが地区の一带で行われて
いる光景を目にするなど、情報や先
入観に囚われず、現地に足を運ぶこ
との重要性を実感したものです。

現在では頭首工、ため池、用排水
路といった農業水利施設の診断、更
新計画に関わる業務を中心に携わっ
ております。業務を振り返ると施設
の多くは耐用年数を超過しても、使
い続けている場合が殆どである印象を
受けます。土地改良区の方々からは
補助事業を活用し、場合によっては
市町村と土地改良区で工事費を按分
したとしても、財政的な問題から費
用の捻出には限界があり、更新や補
修等が満足に行えないという声を聞
くこともあります。こうした状況も
踏まえ、更新計画を策定する際に
は、修繕箇所を優先順位を示しなが
らも、改良区の要望や近年の利用実
態といった地元の声を傾け、出
来るだけ低コストでありながら、施
設を長く使用できる実現可能な方法
の提案が重要となり、そして難しい
部分であると感じております。

また、業務を通して様々な土地改
良区に足を運ぶ機会がありました
が、土地改良区の多くは工事専門の
部署を持たず、少人数で多様な業務

を抱えていることが殆どと思われま
す。近年では土地改良区より災害復
旧に関する発注設計書作成から工事
完了までをサポートする機会があり
ましたが、施設の更新工事や災害に
よる復旧工事を行った際、日々の施
工管理や現場で発生する問題の難易
度によっては土地改良区のみでは対
応が難しく、そうした場合における
サポート体制も必要になるのではな
いかと感じました。

最後になりますが、会員の皆様お
よび共に働いてきた職員の方々の支
えもあり、本会にて無事に10年間の
勤務することができました。記して
感謝の意を表すると共に、これから
も一層の努力を重ね、福島県の農業
農村の発展に寄与し続けてまいりま
す。



永年勤続を受賞して

磐梯西部土地改良区

加藤 健也

この度は、永年勤続を受賞させて
いただきありがとうございます。こ
れまで色々な方に叱咤激励・罵詈雑
言を頂きながらも頑張つて生きてき
た結果だと痛感しています。沢山の
方に迷惑をかけた11年を反省し、今
後は他力本願をモットーに傍若無人
を心掛けて過ごしたいと思えます。
これからもよろしく願います。
色々すみません。



水土里ネット福島
見目 将規です。
福島在住歴10年、
これからもよろしく
お願いします。



水土里ネット福島
尾形 聡です。
30年勤続の表彰を
受けました。
これからも土地連
職員として土地改
良の発展に尽くし
ていきたいと思っ
ます。



水土里ネット福島
近野 好範です。
あつと言う間の30年
です。皆様方に感謝
いたします。





年男・年女



これまでとこれからと

安達疏水土地改良区

菅 野 龍太郎

新年明けましておめでとうござい
ます。

本年もどうぞよろしくお願いいた
します。

さて、年号が令和に変わり早いも
ので6年が過ぎましたが皆さんはど
のようにお過ごしでしたでしょう
か。

私にとって土地改良区で働き始め
てからの年月というものはあつとい
う間で、気が付けば臨時職員として
採用された平成25年12月から10年ほ
どの月日が経過していました。

私の所属するこの土地改良区は受
益地への用水をほぼ全て河川から大
型揚水機を使用したポンプアップで
賄っており、各受益地への配水を地

下へ埋設されたパイプラインで送水
する、少し珍しい揚水業務を行って
います。

業務に携わった最初の頃は老朽化
した揚水施設のトラブルが相次ぎ、
また埋設されている為に目視でどこ
まで通水しているか経験不足で分か
らないパイプラインでの用水に苦戦
し、受益者の方から「朝から水が出
てこない、どうなっているんだ。」
等のお叱りの言葉を多く頂き、不甲
斐なく思う事が多々ありました。

それでも2年、3年と仕事をこな
して行く内に施設の維持管理や揚水
業務にも理解が深まり、受益者の皆
様から「ありがとう」のお言葉も頂
けるようになった頃、仕事へのやり
がいや達成感を感じる様になってい
きました。

そして令和に入り、東日本台風に
よる施設災害への対処や資材・燃料
価格の高騰、電気料金の値上げによ

る維持管理への対策など、めまぐる
しい変化が訪れ土地改良区の運営に
も大きく影響を与える事柄が多くあ
りました。

これからの農業情勢や土地改良区
のあり方など考えることは数多くあ
りますが、来年度もこれまでの経験
を生かし、農家の皆様の一助となる
べく一層業務運営に励み、農業発展
に向け貢献し、己のスキルアップも
していけたらと考えています。

まだまだ未熟者なので関係各所へ
ご迷惑をお掛けする事も多いと思
いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろし
くお願いしたいと思います。

最後になります皆様のご健勝と
ご多幸を願い結びとさせて頂きま
す。



雲竜型

水土里ネット福島

菅 野 恵 吾

新年明けましておめでとうござい
ます。本年もよろしくお願いいたし
ます。

私は、令和4年度に入会し、辰年
の今年に3年目を迎えます。辰年の
年男ということで「むつみ」の原稿
依頼をいただき、1年があつという
間感じました。龍にまつわる話を
考えた時に大学時代にお世話になっ
た台湾の圓山大飯店の龍について思
いだしたので、皆様に少しご紹介し
たいと思います。

圓山大飯店の館内には、壁画や天
井などに龍の装飾がされていて、約
20万匹以上いるそうです。その中で
も印象に残っているのは、ロビーの
大階段を上った先にある2階に鎮座
する百年金龍です。この龍はホテル
が建設される前にあった台湾神社の
頃から残っており、100年以上の
歴史があります。1944年に日本
軍機が松山空港に着陸するはずが、
台湾神社（台湾神社）に墜落し、神
社は焼失しても百年金龍だけが残
り、神の跡といわれ、縁起がよいと

言われています。ホテルのスタッフによると、龍が天高く昇れるように、龍の頭上は天窓になっており、太陽の位置で見え方が変わって、神々しく輝くため、中には礼拝する人もいるとのことでした。

もし、機会がありましたら辰年のこの年に行ってみてはいかがでしょう。か。

さて、話は戻り、現在私は主にホームページ作成や広報関係などを担当しております。以前は土地改良区の皆様にお会いする機会がありました。最近ですが、最近研修会での事務局や巡回指導で先輩職員に同行してお伺いすることが増えました。電話だけではなく実際にお会いすることで、自分を知っていただき、広報活動だけではなく、今後業務の幅を徐々に広げていきたいと思っております。

今年1年皆様にとって良い年でありますよう、お祈りしております。



年男

会津坂下町只見川土地改良区

渡 辺 和 都

新年明けましておめでとうございます。

令和6年は辰年ということである男の年になります。今回で3回目の年男となりますが、30歳を過ぎたあたりから自分が今何歳か気にもしなくなつたので、このような機会をいただき改めてもうそんな歳になったのかと思ひました。ただ鏡を見ると20代とは違う自分が映っているのので、着実に歳は取っているんだなと実感しています。80歳まで生きると考えるとまだまだ先は長いですが、人生の3分の1は終わってしまったので、今後も一度きりの人生を楽しく過ごしていきたいです。

さて、前回の年男だった年を振り返ってみますと、独身だった私は私生活では遊びやサッカーなどと自由に過ごしていたなと思ひ返します。現在は怪我や体の衰えによりサッカーは卒業してしまいましたが、人生の最愛のパートナーを見つけ結婚することができ、ありがたいことに娘が誕生し日々楽しませてもらって

います。子どもの成長は早いもので2歳半になりましたが「パパきもい、パパあっち行って、心配してくれてありがとう」などといった発言をするようになり、今後どのような言葉が出てくるか成長を温かく見守ってあげたいと思います。

仕事につきましては、東日本大震災のあった年に採用いただき、世間では中堅職員と呼ばれる勤続年数になりましたが、まだまだ知識が足りないため日々奮闘しています。思い返してみると、採用いただいた年は平成23年7月新潟・福島豪雨で揚水機場が被災し、臨時水中ポンプによる揚水からの徹夜の配水作業を思い出します。その後も毎年様々な事柄があり経験をさせていただきました。大変な時もありましたが、無事乗り越えることができたのは、役員や組合員の方々のご協力、関係機関の皆様方のご指導ご協力あつたものであり、本当にありがとうございます。

最近では熊の出没が多発し、当改良区管内でも頻繁に目撃され、事務所付近の住宅にあつた養蜂箱を持ち逃げするという出来事がありました。熊とご対面になる日も遠くなさそうなので、安全を確保しながら施

設の巡回をしたいと思ひます。

最後になりますが、健康に留意し今まで以上に励んでいきたいと思ひますので、皆様今年も1年よろしくお願ひいたします。



新会員のみなさんより

泉に及ぶ

水士里ネット福島
元村 雅登

令和5年4月より土地連総務企画課に配属されました元村雅登と申します。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

新人ではありますが、今年で57歳です。大河ドラマの徳川家康に例えると57歳は、ちょうど関ヶ原の戦いの時だそうですね。大河ドラマ「どうする家康」の松本潤さんを見ると、

どうしても同年齢には見えませんでした。関ヶ原の戦場は屈強な男子で埋め尽くされており、当然ながら家康公はあの地あのあるとき、最高齢の一人だったのでしょうか。ですが私の周囲を見渡しますと、私より先輩の皆様が非常に多い。土地改良という職場の特質だと思いますが、やはり高齢の皆様をお相手にした仕事だと肝に銘じなければなりません。そこで私は一つの誓いを立てました。

「私の作成する資料は、40ポイント以上の大きな字で必ず作る」これを自分の至上命題にして頑張る所存です。57年の人生の約半分は、民間企業におりました。主に営業と経理を担当しましたので、最近話題の「複式簿記」とは長い付き合いがあります。この経験の皆様のお役に立てたいと、今、会計指導などで皆様の事務所にお邪魔して支援の任務に励んでおります。お邪魔しました際は、「40ポイントの元村が来た」と思ってください。

私は風貌こそ田舎っぽい人間ですが、生まれも育ちも東京都(板橋区)です。子供の頃に母の帰省に同行し、エル特急で福島県に来たことは私の人生の良き思い出の一コマで

す。特急列車の車窓から見た田んぼはまるで金色の絨毯に見え、あの上で寝てみたいと思ったものです。後に、田んぼのそばで遊んで転落し、せっかくの一張羅を泥だらけにしましたが…。

この素晴らしい景観、田舎、これを今まで守ってくださってきた農業者の皆様、そして土地改良区の関係者の方々。皆様のお役に立てることは、私の「第二の人生」の最大の喜びです。

最後に私の「座右の銘」、中国の思想家、孟子の言葉を紹介します。「為すある者は、たとえ井を掘るがごとし。井を掘ること九仞(じゅん)、しかも泉に及ばざれば、なお井を棄つと為すなり。」

土地連の仕事で「泉に及ぶ」とは何でしょうか。それを自問しながら土地改良区の皆様からあなたに頼ってよかつたと言われるよう、一つの任務に向かい合います。どうか「泉に及ぶ」まで暖かく見守ってください。皆様方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

土地改良区に勤務して

江花川沿岸土地改良区
柏村 國博

令和5年4月1日より江花川沿岸土地改良区に勤務しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は、長沼町時代の昭和51年から圃場整備事業に携わり、江花川沿岸土地改良区に2年間に在籍し、その後、長沼町役場産業課の職員として平成7年度まで20年間、県土地連の換地係や確定測量係の職員と一緒に事業完成まで担当をしてきました。

その間に、現在の県中農林事務所の研修生として2年間農業土木の設計や積算などを担当職員の皆様から教えていただき、業務に役立ててきました。県営事業から団体営事業、新農構事業など長沼町の耕地約1000ヘクタールの圃場整備に関わってきました。

当時を思い起こせば、換地委員の皆様とは、酒を飲みながら夜中まで話し合ったことや、換地配分や工事への異議申し立ての対応、相続登記の未処理に対する対応など大変なことがたくさん思い出します。特

に、集団化の考え方をめぐり、受益者に納得されないことは何度もありました。現在の改良区の組合員データをみると、離農者が多く、大規模経営農家へ耕作の委託が進んでいますが、バラバラな水田を耕作しています。あの当時にもっと集団化ができていればと思いますが、自作地が宝と置いていた時代の換地配分の困難さと現在の農事情は全く別物のようにです。

又、市役所退職後、1年間在籍した母畑地区土地改良区では、換地処分後の整理と、初めて未納者対策として滞納処分のための県の認可手続きを担当し、未納者全員5年分の認可を得てきました。これは、市役所の税務・収納業務経験が役に立ちました。

退職後、長沼行政区長6年間務める中、藤沼湖決壊による慰霊碑建立実行委員会を設立し、震災から10年目に、犠牲になられた地域の方の慰霊碑の建立と後世に伝える記録誌を作成し、伝承活動を行っています。

現在、新藤沼ダムが完成して取水・配水の管理を行い、3月末までに満水にするよう管理を行っているところですが、この維持管理にあたり、藤沼ダムかんがい用水管理規程（管

理規程の全部改正）と土地改良事業維持管理計画変更の認可を得るべく担当をしています。短期在職ではありますが、長年お世話になった土地改良区のために、少し頑張ってみてと思っています。

よろしくお願い致します。

水士里ネット福島
石井 秀哉

こんにちは。福島県土地改良事業団体連合会農村振興部農地管理課の石井秀哉と申します。

4月より勤務し始めてから早いもので半年以上が経過しました。以前は測量会社に約9年間勤務しておりましたが、土地改良に関わる測量ではなく、主に道路や河川の地形測量や縦横断測量、宅地等の用地測量がメインでした。本会の職員になって初めて、現場整備事業の確定測量業務に携わりましたが、なにかもが分からない事だらけでこの9年間は何だったのだろうかと思うほど自分の未熟さを実感しました。現在も勉強中ですが、上司や諸先輩方の親切なご指導の下、少しずつではありますが

すが業務を覚えていく最中です。

また、本会に入会して感じた事は、コミュニケーションの大切さです。農家の方々はもちろんのこと、整備事業の担当者の方との打ち合わせなどコミュニケーションが大切になってきます。私はまだ現場を任されてはいないのですが、いざ任せられた時でもしっかりと対応ができるように常日頃からコミュニケーション能力が向上するように意識をして日常生活を過ごしていきたいと思っています。

来年の抱負としては、作業規程や方法、現場での動き方、現場で観測したデータのまとめ方をいち早く覚えるということ。覚える事がたくさんあります。混雑してしまいがちな時が多々ありますが、一つ一つ丁寧にまずはミスをしないように心がけて、教えていただいた事はすぐにメモをとり、ミスをしてしまったとしても同じミスを決して繰り返さないようにしていきたいです。

はじめまして、鹿島町土地改良区所属で、事務局次長兼庶務会計係長の下田と申します。令和5年の4月に採用された56歳の新米です。生まれば鳥取市ですが、父の仕事の関係で幼少期に千葉市へ、中学からは東京の目黒区で過ごすこととなりました。明治大学法学部卒業後は、商業施設の開発・運営会社に約30年間勤務し、若き頃は広告宣伝、販売促進、後半は経理業務に携わり、中年になつてからは、ビルの施設管理（設備投資・修繕、リスク管理）と不動産（鑑定評価、売買、賃料改定）の業務を専門としてきました。趣味はDIY、庭いじり、ゴルフで、最近小さな畑を始めました。

第2の人生

鹿島町土地改良区
下田万寿美

土地改良区にお世話になるきっかけは、義父の介護のため、令和4年の12月に川崎市から南相馬市にある妻の実家に移住したことによりです。農村に住むのは初めての経験で、土地改良区という組織もここで知ることとなりましたが、商業と農

業の違いはあれ、どちらも不動産や施設の仕事であると理解し、お世話になることを決めました。

現在の仕事ですが、今年度の上期は、土地改良区独特の会計に慣れることから始め、月次決算業務のフォーマット化により、本決算でいかに特別ことをやらないで済むかをテーマに取り組み、下期は、申請準備を含め、11地区のほ場整備を抱えていますので、まずは全ての地区の会合に参加し、各地区の進捗状況や課題の把握に努めているところです。

実際に働き始めて直面したのは、土地改良区という組織の位置付けや意義を理解することの難しさでした。組合員をはじめ、県、市、多面的機能活動組織、水利組合等が存在し、様々な組織との連携が必要ですが、誰が所有者で占有者は誰か。使用者と管理者をどう整理するのか。民法第717条（土地の工作物等の占有者及び所有者の責任）をどう解釈すれば良いのか等、権利・義務の理解が追い付いていない状況です。もっとも、地域農業は長い歴史の中で先人達の熱意と努力により現在の形に進化してきたわけですから、完全に整理しきれない面があることも理解できます。今後、それらの伝統

も尊重しつつ、地域と組合員の皆様から、無くてはならない存在であると評価を頂けるよう努力していきたいと考えています。

最後にこの度、「土地改良換地士」に合格することができました。勉強方法など、情報が大変少ない試験で苦労しましたが、正直、土地連の職員の方から支援を頂けたことが非常に大きかったと実感しています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

よろしくお願い致します

猪苗代町土地改良区

佐藤 愛莉

令和5年4月より猪苗代町土地改良区にてお世話になっております。佐藤愛莉と申します。よろしくお願い致します。

私は、福島県内の高校を卒業し、新卒として採用していただきました。高校で進路指導部の先生から土地改良区を勧めていただくまで正直どのような仕事をしているところなのか全く分かりませんでした。高校3年生の夏に職場見学として改良区を訪れたとき、様々な施設を案内し

ていただきました。訪れた施設は、私が19年間猪苗代町に住んでいても知らない施設ばかりで驚きました。仕事内容をお聞きしたとき、入社できたら地元の役に立てる仕事なのではないかと思いい入社を決めました。

現在の私の業務内容は、総務と事業です。事業の方では、私が勤めている改良区で女性が担当するのは初めてと聞き、最初はとても不安でいっぱいでした。現場に行くことは多くないだろうと思いましたが、通水期間になると毎日のように外に出て水路の状況を確認しに行ったり、水路に落ちている倒木や動物の処理を行ったりするなど力のいる作業でした。大変な作業ではありますが、猪苗代町の美しい自然を守っていける仕事にとてもやりがいを感じております。

また、私は今まで農業や土木に全く関わりが無かった為、会議や打合せに参加しても専門用語が多く最初のうちは何を話しているのか全く理解できませんでした。初めはこれからやっていけるのかという不安と焦りがとても大きかったです。しかし、職場の方々や丁寧な細かく教えて下さったお陰で少しずつですが自分の業務を理解していくことができました。今でも会議や打合せで分からない

単語が出てきますが、そのたびにメモをして調べるということを繰り返して1日でも早く仕事をこなせるよう日々勤勉しております。

来年になると、更に仕事の量が増え、覚えることも多くなるので自分の仕事に責任を持ち業務に努めて参りたいと思います。

最後になりますが、知識も経験もまだまだ未熟な私ではありますが、精一杯業務に励んでいきたいと思っておりますので組合員の皆様、役員の皆様、関係機関の皆様、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

今日もお米が美味しい

四時川沿岸土地改良区

小浜 香織

令和5年4月より四時川沿岸土地改良区で正式採用となりました、小浜と申します。

令和5年9月の大雨において、被災された多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

私はこれまで長年にわたり、サービス業に従事してまいりました。その中でも飲食関係の経験が多く、食

材に近い場に身を置く事がよくありました。食べる事は生きる事、15歳で初めてバイトしたお店のオーナーさんに言われた言葉です。30年が経ち、食べる事の始まりの場所に携わる仕事に就き、感慨深い気持ちでいっぱいです。

私が小さかった頃、家は米農家でした。稲刈りの際は家族総出で、はずかけの手伝いなどしました。といっても私はイナゴ取りに夢中だったと記憶しています。今でも秋になると、藁焼きのにおいや両親の手伝いという名の迷惑行為を色々と思ひ出します。

夏の一面の緑、秋の黄金色、この美しい景色が年々減少している現実、農家さんを取り巻く厳しい環境。知識が乏しい私は目の前の現状を受け入れるしかない、無力感でいっぱいです。今回、土地改良区に採用された事で、さらに農業に対し関心が高まりました。これからも改良区の仕事について沢山学び、研修会などで知識を広げ、1日でも早く組合員の皆さんのお役に立てるよう努めていきたいと思ひます。そして美味しいお米を沢山作って欲しいです。改良区の間として、いち消費者として支えていたらと図々しくも思っております。最後に、よそ者の未経験者がどこ

まで頑張れるか分かりませんが、今後ともご指導のほどよろしくお願ひします。

今後の抱負

富岡町土地改良区

遠藤 朱

はじめまして。令和5年4月より富岡町土地改良区に勤務しております遠藤朱と申します。よろしくお願ひいたします。

私は富岡町の出身で、高校を卒業するまでの18年間郡山で生活をおくっていました。高校では鏡石町にある岩瀬農業高校で土木・測量についてを学び、フォークリフトや車両系建設機械整地運搬などの資格を取得しました。高校卒業後は地元である富岡町に就職し、少しでも富岡町の復興に携われたらと思ひついています。このことを富岡町で建設業をしている叔父に相談したときに紹介してもらったのが富岡町土地改良区でした。高校の先生とも相談し、今自身の上司である先輩方に土地改良区について説明をしていただきました。その時にもらったパンフレット

だったり説明していただいたことなどを振り返り少しづつ大まかではありますご理解することができ、興味を持っていきましました。今ではご縁があり、就職することが出来ました。

実際に業務をしていくうえで、農業や土地改良事業に関しては知識・経験不足、基盤整備やダムの維持管理業務などの業務の幅広さ、まだまだ分からないことだらけで今でも先輩方に支えられ助けられて、毎日勉強の日々です。ですが高校で学んだ知識や職場の先輩方に教えて頂いたことなどを今後の土地改良区の業務に生かして富岡町の復興に少しでも貢献できるように頑張りたいと思っております。

最後になりましたが、今後多くの業務をこなせるよう毎日精進して参りますので組合員の皆様、各改良区や関係している皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

土地改良区職員となつて

そつま土地改良区

伊東 秀将

初めまして、今年4月にそつま土地改良区に採用されました伊東秀将

と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

採用されてから9ヶ月が経とうとしておりますが、日々学ぶことが多い、1日がこんなにも早いものなのかと思うぐらいのスピードで過ぎていて私を感じたことや捉え方(考え方)が変わったことを少しお話させていただきます。

まず、実家が農家ではないこともあり、土地改良区がどんな仕事をしているのかはつきりとわかっておりませんでした。そんな私に諸先輩方が少しずつ丁寧に業務内容を教えてくださり、一般事務からダムの管理、各施設と幹線水路の点検・整備等多岐に渡っており業務の幅の広さに驚き、対応に苦慮することも多々ありますが、自分なりにやりがいを感じております。

次に、これまでの捉え方(考え方)が変わったのが、天候(雨)に対してです。前職が土木業だったこともあり、雨が降ると作業が進まない(工期内に工事が完了しない)ことから毎日雨が降らないことを願ひながら仕事をしておりました。しかし、土地改良区に勤務してからは一転、雨(水)に対する意識が変わり、正直私

の人生の中でこんなにも雨が降ってほしいと願う日があるとは思っていませんでした。私たちが毎日食しているお米などが、農家の皆様のお力はもちろんのこと、この雨（水）がなければ当たり前のようにあるものが当たり前でなくなることを改めて考えさせられました。今年はニュース等でも取り上げられていましたが、例年よりも雨量が少ない地区が多く、私どもが管理しているダムの貯水量も例年よりも少なく、来春までにどれくらい回復するのか危惧しているところですが、雨が降ってくれることをただただ願う毎日です。

最後に、まだまだ知識も経験も足りずご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、1日も早く組合員の皆様のお力になれるよう努力していきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

よろしく願います

水土里ネット福島

宗形 勇輝

令和5年4月より福島県土地改良事業団体連合会、総務企画部総務企

画課に配属となりました宗形勇輝と申します。よろしく願っています。

大学時代は経済学部で、簿記会計、データ科学（データサイエンス）に強い興味関心を抱き、学んできました。専攻は経済データ科学でしたが、経済データ科学とはいったい何なのか、疑問を抱かれる方が多いのではないかと思います。誤解を恐れずに言えば、GDP、金利、所得、消費といった経済に関するデータを、昔ながらの統計手法から最近話題のAIを使った手法まで幅広い手法を用いて分析し、理論の実証や将来の予測を行う学問です。

私は福島で生まれ育ち、農業と深いかわりを持つことは多くありませんでしたが、農家の方が身近にいたため、福島で作られたおいしいお米、野菜を、福島で作られたという実感を持って、頂く機会に恵まれました。

また、福島で東日本大震災や豪雨などの災害を経験する中で、今まで食べられていた福島の農作物が手に入らなくなり、農業は災害や天候に大きく左右されやすく、さらに人手も不足していることから、幾度となく、守っていく必要があると感じてきました。

水土里ネット、という名前ため池のポスターで見ることがあり、存じておりましたが、ハローワークにて初めて本会の存在を知りました。

本会ホームページで農業農村整備事業について調べたところ、先ほど述べたような災害等にも強い農業農村を、農地の面、農業水利施設の面、組織体制の面など、多方面から形作るうとする事業であって、福島のおいしい農作物を守り、育てていくうえで、本会はとても重要な役割を担っているということが分かりました。

そこで、私は本会で業務に従事し、農業農村について1から学びながらも、大学時代学んだ簿記会計、データ科学の知識やスキルを活かして、地元福島の農業農村をより強固かつ魅力あるものにしていきたくと思い、本会を志望し、入会いたしました。

最後になりますが、本会に入会し半年以上が経ち、未だ分からないことばかりですが、上司や先輩方から学び、福島の農業農村のために何ができるかを考えながら、真摯に業務に取り組んでいきます。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしく願っています。

よろしく願います

磐城小川江筋土地改良区

金成 紘嗣

会員の皆様初めまして。令和5年4月より磐城小川江筋土地改良区職員となりました金成紘嗣と申します。よろしく願います。

私はいわき市平の生まれで、自宅の周りは田んぼに囲まれています。農繁期になると、トラクターの走る音や田植え機の音が聞こえ、夏は毎日のように草刈りの音がどこからか聞こえてきます。秋の収穫時期は刈り取られた田んぼから稲の香りが漂ってきて、今年も美味しいお米が出来たかなとわくわくします。

兼業農家だった事もあり、前職は農協に勤務していました。金融業務や共済業務を通して地域金融の一端を担っていました。その際に、農家さんからはほ場整備の話や今後の農業に対する不安などの話をよく聞いていました。私自身、農業は身近に感じていましたが、当時は金融や共済を通して支援するのが私の仕事という風に思っていました。

しかし、あまりにも多くの農家の方から今後の農業に対する展望を聞いていると悲観的な内容が多く、どうにかならないのかと考えていた際に、ご縁があり磐城小川江筋土地改良区に勤務する事になりました。

入区してからは水路や排水機場の維持管理業務、ほ場整備業務などを担当しています。当改良区の幹線水路は浄水場も利用している事から、上流部は常に通水している状態になっています。年に一度幹線水路の中を役員さんと歩いて調査をしますが、老朽化が激しい場所や対策が必要な箇所が多くあり日々の維持管理業務の大切さを感じました。

また、改良区に入区するきっかけにもなったほ場整備業務についてですが、設計や工事、換地などについて知らない言葉が多く、一つの資料を読むのにも苦勞をしています。農業に関する知識や土地改良事業に関しての知識、経験不足を痛感させられる毎日です。しかし、現在当改良区内で3地区が進行している事もあり、分からないままにせず上司や先輩方のご指導の下、様々な知識を身に着け業務にあたれるようにしていきたいです。

最後になりますが、今後いわき市

内はほ場整備事業を利用する地区が多い事が予想されます。農家さんの農業に対する今後の不安や悲観的な思いなどを土地改良事業を通して解消し、将来の農業は明るいと言ってもらえるように業務に努めていきたいです。その為にも日々、勉強し責任感を持って業務にあたっていきたいです。各役員を含めた組合員の皆様、各関係機関の皆様には今後もお世話になるとと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

よろしく願います。
たします。

阿賀川土地改良区

児島 正幸

令和5年4月より阿賀川土地改良区でお世話になっております、児島正幸と申します。どうぞよろしく願います。

阿賀川土地改良区の職員となり、約10ヶ月が経とうとしており、改めて4月からの職務内容を振り返ると時間の流れの速さを感じます。

入社当時は、地元に住んでいながらも当改良区管内の地区名と位置が一致しない地域や当改良区管理施設

の位置、田畑に繋がる水路など、普段通っている道路脇の水路や水門ですら分からず、こんなところに水路、水門あったんだと驚きの毎日で、現場作業の際は地図を片手に水路位置を確認しながら現場作業をしています。恥ずかしながらも今でも水路位置図を片手に現場に向かう現状です。また、現場作業などの際、田んぼに関する専門用語などについては、全くの無知であり初めて聞く言葉ばかりで、毎日が農家の学校に通っているかのようなでした。組合員の方と話していても専門用語に戸惑い、話の内容についていけなかったことを思い出します。

休日など車で出かけた際に気付くと田畑や水路の状況などを何気なくみて確認していたり、頭の中で水路位置や管理施設名など再確認している自分がいます。

現在、会計を主とし現場作業等の業務に努めており、阿賀川土地改良区に入社するまでは、福祉業界にて会計等の業務に従事しておりましたので、会計業務につきまして多少は、経験してきたことが活かされていることもありますが、まだまだ分からない業務が多いため、今後も先輩職員や近隣土地改良区の方々にご

よろしく願います。
たします。

会津坂下町只見川土地改良区

長谷川新哉

教授いただき一つ一つ確認しながら業務に努めて参りたいと思います。最後になりますが、これから先も様々な壁に直面することもありますが、一生懸命業務遂行に努め、土地改良区に必要なと思われるような人材を目指していきたいと思っておりますので、組合員の皆様や役員の方々、水土里ネット福島職員の皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

令和5年4月から会津坂下町只見川土地改良区で勤務しております長谷川新哉と申します。

会津美里町出身の39才です。小規模ですが米農家を営んでおります。幼い頃から田植え、稲刈り、祖母の野菜づくりなど手伝っていたこともあり農業は非常に身近なものでした。以前は、JAに勤務し農業指導等担当し農産物の生産振興に携わっておりました。この度、土地改良区に縁を頂き、ご採用ありがとうございます。

ございます。

農業従事者の高齢化が進み離農者が加速する状況において、土地改良区を通じて大規模農家、法人など担い手を中心とした営農経営や既存農家の方々に対して様々な角度から接することができ、新鮮な気持ちで毎日勤めさせていただいております。実際に勤めてみますと、業務に対する知識、揚水機の運転・管理方法や聞いたこともない専門用語など分からないことばかりで不安な気持ちです。職員2人体制で業務を行っており、職員の渡辺さんより、ポンプ操作や水路等の管理、多面的機能広域協定事務の進め方などいつも親身に教えて頂いていることや、役員の皆様からの励ましのお言葉など大変感謝しております。

今年の夏は渇水の影響を受け稲が一部枯れてしまう被害が発生しました。農業の生産振興を行う為には、その土台となる農業基盤の整備が非常に重要と感じており、当改良区は揚水機での用水確保が中心ですので、組合員がより安心して作物を栽培できるような、より一層の用水の確保や、今後、農地集積や大型機械の導入等を図るため、組合員皆様との話し合いを通じて地域農業を効率的に経営でき

るよう協力しながら頑張りたいです。

まだまだ未熟ではありますが、土地改良区に携わる先人の方が築き上げた農地を未来の後継者に残し、これからも組合員から必要とされる土地改良区の業務に努めて参ります。新規就農者も増加傾向にあるようですので、明るく楽しい農業の基盤作りを皆様と一緒に精一杯務めて参りますので、ご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

新しい課に配属となりました

水士里ネット福島
矢吹直也

令和4年4月から福島県土地改良事業団体連合会でお世話になっております、矢吹直也と申します。去年は臨時職員ですが測量課で働かせて頂き、今年度から正社員として入会し、農村整備課に配属となりました。

測量課にいたときは、体感的にはほ場整備についてよりもGNSSや測量方法等測量の専門知識を学ぶことが多かったのですが、農村整備課に来てからはほ場整備事業について学ぶことが多くなり、ほ場整備事業

の設計を行うにあたっては設計・工事の積算等の知識が必要になるので必要な知識の範囲が広く多いと感じました。私が初めに苦労したのはCADソフトが測量課の時と変わったことと、打ち合わせに参加した時に

内容が理解できなかったことでした。特に最初の打合せでは聞いたことのないワードがたくさん飛び交い、とりあえずメモをなぶり書きしておりましたが、読み返しても理解できませんでした。しかし、農林事務所の方や外注先の方との打ち合わせ時に専門知識を身に付けておかないと問題への解決策の提示や適した案を出せないため、早く専門的な知識を身に付け、案を提示できるようにレベルまで成長したいです。

よって今後の展望として、3年目までの短期的な目標としては前述したとおりほ場整備事業に必要な専門知識を身につけることです。工期までのスケジュールが立てられるくらい業務内容を理解し、仕事を円滑に進められるようになりたいです。今は教えて頂く機会が多い立場ですが、後輩が出来て教える立場になったときに正しいことを教えられるようになっておきたいです。長期的な目標としては、設計や業務内容について

深く理解し、農業に従事する方が安全に長く使用できてかつ利便性も兼ね備えたほ場整備の設計が出来るようになりたいです。

私はまだ知識が足りませんが、上司や同僚は聞きやすく親身に教えてくださる人ばかりで良い環境に恵まれていると感じております。この環境に感謝し、甘えず日々努力したいと思います。

土地改良区の職員となつて

安積疏水土地改良区
吉田功

はじめまして、令和5年3月より安積疏水土地改良区に勤務しております吉田功と申します。よろしくお願い致します。

安積疏水土地改良区の水利課に配属され様々な施設やその役割、各種水路やそこまでの道筋、草刈りや伐採で扱う機械の操作や発電関係の業務など覚えることが多く多忙な日々を過ごしましたが1年間働いた経験は、私にとって非常に意義深いもので単なる業務だけでなく、地域の農業や生活に欠かせないインフラの一

翼を担い、自然環境との調和を保つ責任を強く感じることができました。

日々の業務においては、水路の清掃や保守作業が主な任務でした。雨期や台風の影響で水路が堆積物で詰まることもあり、それを定期的に除去する作業は体力を要しましたが、地域の農業や住民の安全を守るために不可欠であると感じました。

また、水路の点検や保守点検も担当し、これによって地域の防災能力向上に寄与できたことはうれしく思っています。この仕事で特に印象的だったのは、地元の住民や農家の方々とのコミュニケーションが深まったことです。彼らと協力して水路の問題を解決することで、地元の方々との連帯感が生まれました。

また、彼らの声を聞きながら、直面する問題に対する対応策を考えることができ、その結果として地域社会に貢献できたと感じることもできました。

一方で、季節や天候に左右される仕事であるため、時折過酷な環境下での作業もありました。しかし、その中で同期や先輩方と協力し合いながら対応していくことで、仲間との連携の重要性を痛感しました。

仕事仲間との信頼関係が築けたこ

とで、作業効率が向上し、楽しい仕事環境を作り上げることができました。今年の夏は雨量が少なく暑かったため、水不足が心配されておりましたが、農家の人々の声に真摯に対応した結果、例年通り以上の収穫が確保できたと聞いております。安積疏水土地改良区の水路保守員としての1年間は、水路が持つ重要性和その安定な機能が地域農業にどれほど不可欠なものであるかを実感すると共に地域社会への貢献が直接的に感じられる充実したものでした。自然との共生や地域社会との協力が、私の人間性を豊かにし、将来に向けても貴重な経験となりました。

土地改良区職員と なつて

安積疏水土地改良区

椎根 隆人

はじめまして。令和5年4月より安積疏水土地改良区に勤務しております。椎根隆人と申します。よろしくお願いたします。

1年間、安積疏水土地改良区の水利課職員として働いた経験は、新社会人としての最初の一步を踏み出す

中で非常に意義深いものでした。この仕事を通じて得たさまざまな経験や学びは、私にとって重要な礎となりました。

最初の数か月は、職場の雰囲気や業務に慣れることが主な課題でした。土地改良区職員としての仕事は、水路の巡回や水路の維持管理が主な任務であり、自然の摂理と連動しながら作業を進めることが求められました。この環境への順応過程では、先輩方や同僚からの助言や指導が大変助かりました。新しい職場環境において、お互いに協力し合いながら業務に取り組む姿勢が大切であることを学びました。

水路の維持管理には、機械を使用したり、時には手作業での現場作業も必要でした。これらの作業を通じて、地道な努力や正確性が求められることを痛感しました。同時に、自らの行った現場での作業が周囲の農地にどれだけ影響を与えるかという、仕事の成果を実感することができました。この経験が、仕事への責任感とやりがいを生み出しました。

新社会人としての最初の1年で得た最も大きな成果は、問題解決能力や柔軟性を向上させたことです。予測できない状況や天候の変化に対応

する中で、臨機応変に対策を講じ、業務を円滑に進めるスキルを身につけました。また、異なるタスクや緊急の作業にも迅速に対応することで、柔軟性と適応力を発展させました。

一方で、自然環境との連携作業であるため、季節や天候に左右されることがありました。これにより、計画的かつ慎重なスケジュール管理が不可欠であることを理解しました。様々な要因に左右される仕事の中で、計画性を持ちながらも柔軟に対応する姿勢が求められました。

1年が経過すると同時に、自分の成長を振り返ると、新しい環境への適応力や実務経験の積み重ね、チームワークの強化といった点で明確な進歩を感じました。これらの経験が、今後の職業生活においても基盤となり、新たな課題にも前向きに挑戦できる自信を養いました。

総じて言えることは、安積疏水土地改良区職員としての1年間は挑戦と学びに満ちたものでした。仕事の中で培ったスキルや経験が、新社会人としての基盤を固め、これからのキャリアにおいても活かされることを期待しています。これからも成長し続け、仕事を通じて社会に貢献できるよう邁進していきます。

『女子会』始めました

ふくしま水土里ネット女子会

会長 大 桃 智 子

新年明けましておめでとうございます。

私は、女子会会長で戸ノ口堰土地改良区事務局長の大桃です。

この度、令和4年7月に『ふくしま水土里ネット女子会』を設立しました。女子会って何？と思われる方がいらっしゃると思いますが、この会は水土里ネットの業務に携わる女性同士の交流を深め、情報ネットワークづくりや、情報交換により、女性の活躍の場・参画の場を広げ実りある活動が展開されることが目的であります。設立当時はコロナ禍でなかなか

活動ができませんでしたが、昨年11月に初めて県内の女子会メンバーで研修会を開催することができました。とても有意義な研修会が出来ましたことを役員一同嬉しく思っております。

この女子会は堅苦しい会ではありません。これからの社会は女性パワーを必要としていると思います。組織とか形に拘らず女性同士が研修会等を通じて仲良くなりましょう。そしてスキルを磨いて組織に貢献する意識を持つようになりましょう。

私はこの女子会で一番の年長者です。会長という責務の重さを痛感しておりますが、若い方々に継承しながら役員の皆様と連携して楽しく活動できる女子会を目指しますので、今後も積極的な参加をお願いします。

最後になりますが、本年も会員皆様にとってより良き年でありますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

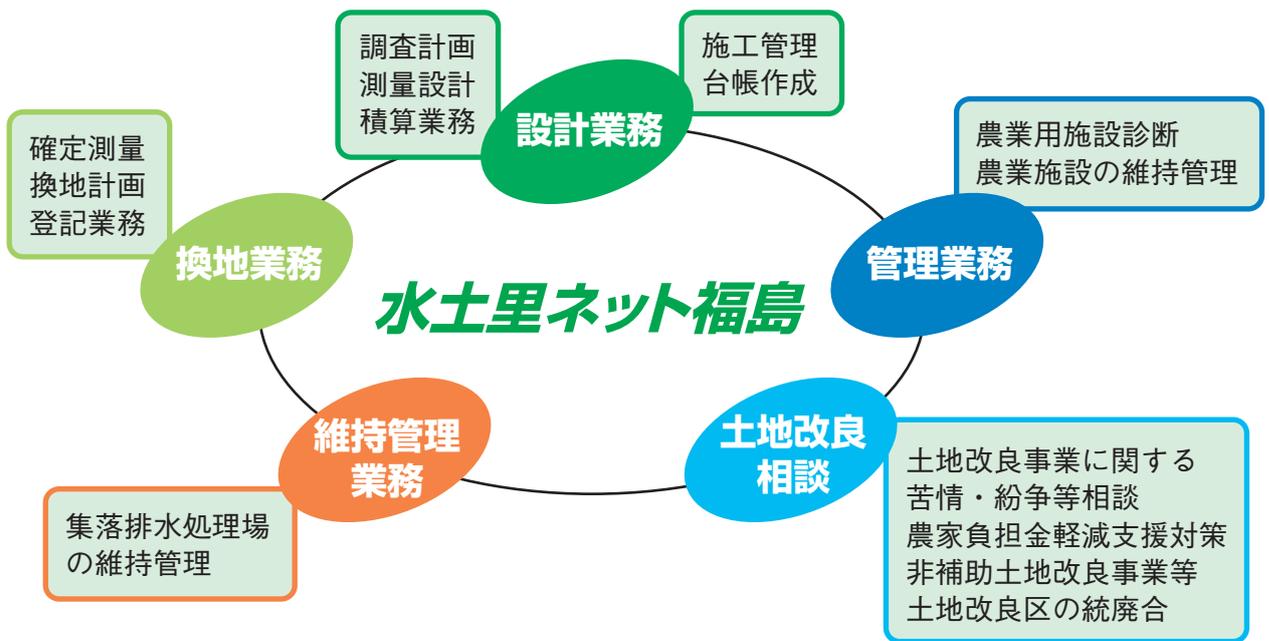


R5.11.14女子会研修会

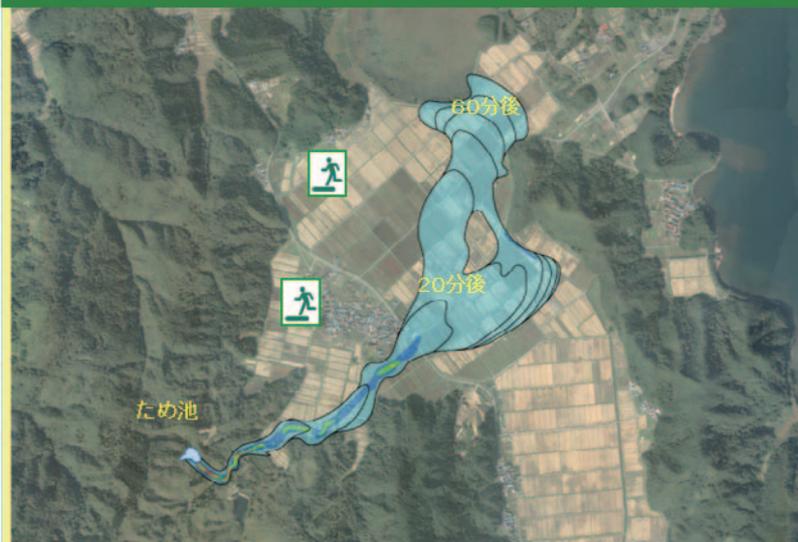
表紙写真 「ふくしま むらの輝き2022」写真コンテスト
「秋味おにぎり」 熊谷 理絵 さん

水土里ネット福島は、水土里を未来につなぐ農業農村整備に取り組んでいます。

水土里ネット福島は、会員並びに地域社会の要請に応じた、新たな業務及び支援に向けて各種の取り組みを展開しながら、活力ある農業・農村づくりのお手伝いをしています。



水土里情報システム(GIS)を活用した、ため池ハザードマップ作成への支援



本会が所有する【水土里情報システム】と【簡易氾濫解析ソフト】を使用して、ため池が決壊した場合の浸水想定区域図が作成できます。



福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502
 福島市南中央三丁目36番地
 TEL 024-535-0371
 FAX 024-535-1200
<https://www.midorinet-fukushima.jp>